

彼方 【かなた】

校長通信
H25.12.20
Vol.30

【終業式で伝えたかったこと！】

それでは、二学期を振り返ってみたいと思います。私がかかったと思ったことは三つです。一番目は、体育祭でのみなさんの頑張りです。金湖実行委員長が「絶対に四段の塔を二つ立ち上げたい！保護者の皆さんや地域の方々を笑顔にし、湖北中はすごいと感じてもらいたい！」と話していたことが、見事に達成されたことです。先生方の補助もなく、男子の四段塔が立ったのは久々でした。来賓の方々や敬老席にいらした地域の方々、保護者の皆さん、高校の先生方、いろいろな人から「感動しました。」と声をかけられました。二番目は、合唱コンクールです。この時も「素晴らしい歌声に本当に感動しました。」「思わず涙が出てきました。」と声をかけてくださる方が沢山いました。私にとってもとても幸せな時間でした。そして三番目は毎日の生活です。各学級や部活でいろいろな問題をひとつひとつ解決し、頑張りとうとした人が沢山いたことです。三年生の朝のボランティア活動や朝の学習会がジワジワと周囲に良い影響を与えてくれます。四月から続けてきた二年三組の残菜ゼロの取り組みもそうです。二学期後半には学年全部がゼロになるほどの広がりを見せてくれました。一年生の英語のノートや数学のワークの取り組み状況が廊下掲示してありますが、頑張っている人が増えてきています。これも少しずつ広がってきています。

これら三つに共通していることでよかったことは何だったのでしょうか？それはみなさん一人一人の一生懸命さだと思います。

一人でも諦めたり、力を抜いたりすれば、四段塔は立ちません。聴く人の心を揺り動かす合唱もできません。残菜ゼロや朝のボランティア、学習ノートも広がっていきません。一人一人が、自分の役割を考えて、精一杯やりきった、力を合わせることでできた、その一生懸命さが観ている人の心を、聴いている人の心を動かし、周囲に良い影響を与えてきたのです。

二年生の英語の教科書に「リオの伝説のスピーチ」を行ったセヴァンさんのことが載っています。リオデジャネイロで開催された環境サミットでスピーチした当時、彼女はまだ十二歳の子どもでした。でも、彼女の真剣な訴えに、参加した各国代表の意識が変わり、サミットの方向性まで変えるほどだったので、一人の人間の真剣さや一生懸命さは、それほどまでに他の人達の心を揺り動かすのです。今学期は、そう言う意味で学校全体としても大きな変化（成長）が見られた学期だと思えます。特に三年生を中心に自分の良さを素直に表現しようとする人、真剣に仲間に関わりかける人が沢山いたことは、本当に嬉しいことでした。

最後に皆さんに、「振り返り」の仕方を伝授したいと思います。「振り返り」は「反省」とは違います。事実を事実として捉え、自分の行動を目指す方向に向けて、変えていくことが「振り返り」です。「なぜやったの？どうしてそうなったの？」というように

過去に起きたことに対して「なぜ、どうして」と問いつながり原因を究明することで、同じことを繰り返さないようにするのが「反省」です。それに対して「何をすれば…、どうしたら…」というように問いかけ、現在から未来への行動変容を作っていくのが「振り返り」です。違いがわかりますか？

よい「振り返り」のためには、『事実』をしつかり捉えることから始めます。『事実』というのはひとつしかありません。例えば『数学のテストが三十点だった。』とします。『事実』はひとつです。『三十点のテストが手元にある』ということだけです。まずは、この『事実』を認めることが大切なのです。次に、『この『事実』をどう捉えるかです。この点数を見て、『よくやった』と見るか、『足りない』とみるかで、その後の言葉や行為が変わってきます。その後の結果も自ずと違ってきます。どちらがよい、悪いというのではなく、『事実』をもとに自分の行動を目指す方向にどう向けるかが大切なのです。『数学の勉強を毎日三十分は続ける』、「わからないときは、わかるまで聴く」、「自力でできるまで同じ問題を解く」、このように具体的な行動まで落とし込むことが大切なのです。行動が決まれば、あとは習慣化するまで挑戦するだけです。「振り返り」とは、未来に向けての前向きな行動変容なのです。

「意識が行動を変え、行動が習慣を変えていく！」

今年一年をゆっくり振り返り、来年も、自ら考え、行動し、助け合うこと…『自主貢献』を意識し、よい行動に変えていきましょう！暮れゆく年に感謝し、新たにくる年に決意を表し、頑張ろう！